

第 36 回定例研究会・シンポジウム開催レポート

2017年2月19日開催

第 36 回シンポジウムが明治大学アカデミーコモンにて、2017年2月19日に開催されました。今回は危機管理士 1 級の資格を保有する 3 名の方にご自身の所属されている役所の防災に対する取り組みや過去の事例、今後の取り組みなどについて発表していただきました。

澤目 国弘（青森県八戸市市民防災部防災危機管理課）
「東日本大震災の被害とその後の防災対策事業及び、各種訓練（八戸市）」



東日本大震災の被害とその後の防災対策事業及び、各種訓練というテーマでお話いただきました。八戸市は過去 60 年で 10 回の震度 4 以上の地震、7 回の津波に襲われており、そういった経験から住民や行政の避難への意識が高く、東日本大震災の際も比較的被害の少ない市であったそうです。その八戸市の東日本大震災後の対策や訓練について、震災前と比較を説明していただきました。

鈴木 修（岩手県県北広域推進局 経営企画部復興推進課）
「広域防災拠点について～岩手県の事例を中心に～」



広域防災拠点について～岩手県の事例を中心に～というテーマをもとに、東日本大震災の対応の教訓や課題を踏まえて、広域的な災害が起きた時の計画策定を行った経験をお話ししていただきました。岩手県の広域防災拠点は協定を結び、協定に基づき一緒になって取り組むことが他県と違う点だそうです。民間の団体や施設に協力してもらうことでの利点などについてもご説明いただきました。

小牧 学（長野県伊那市保健福祉部社会福祉課結婚推進係）
「誰がために ～住民のリスク対策についての考察～」



伊那市が東日本大震災時においても迅速に対応できたのは、事前に被害の想定範囲を広げた様々な避難訓練を行っていたためであるそうで、そういった経験から事前の対策の必要性についてお話いただきました。周囲とコミュニケーションをとる形のワークを取り入れており、参加者同士の考えや思いを知ることができる非常に興味深い内容となっていました。